

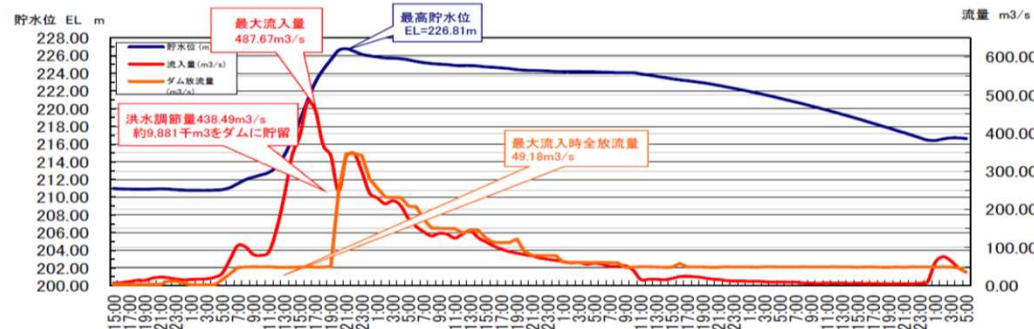
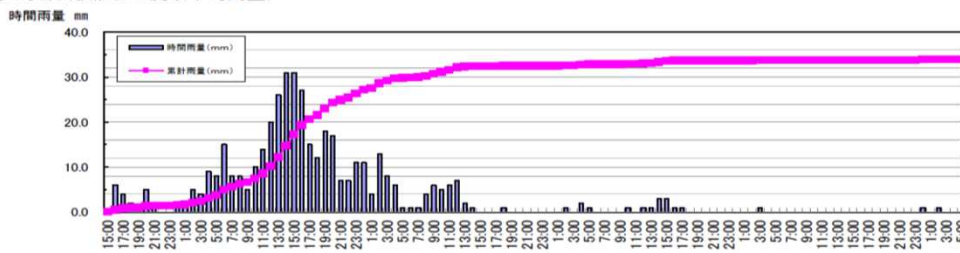
7月15～16日の豪雨における県管理ダムの洪水調節効果(まとめ)

- 素波里ダム、岩見ダムで洪水調節容量では足りないと予測し、**事前放流を実施**。
素波里ダムでは、洪水調節により下流への放流量を最小限にし、**緊急放流も回避し下流への影響を最小限にした**。
岩見ダムでは、**15日の豪雨時はダムに貯留し下流水位の低減に努めた**。事前放流により、緊急放流への移行を遅らせることで、降雨が少なくなつてからの実施となり下流への影響はほとんどなかった。
- 旭川ダム、岩見ダム、萩形ダム、水沢ダム【農地防災ダム】で緊急放流が実施された。
洪水調節容量を最大限活用することで、**15日の豪雨時はダムに貯留し下流水位の低減に努めた**。その後、降雨が少なくなつてから緊急放流へ移行したことから、下流水位の影響を最小限となっている。

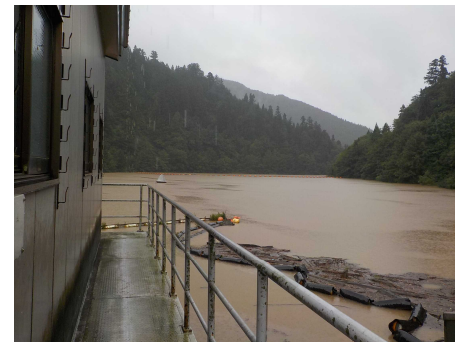
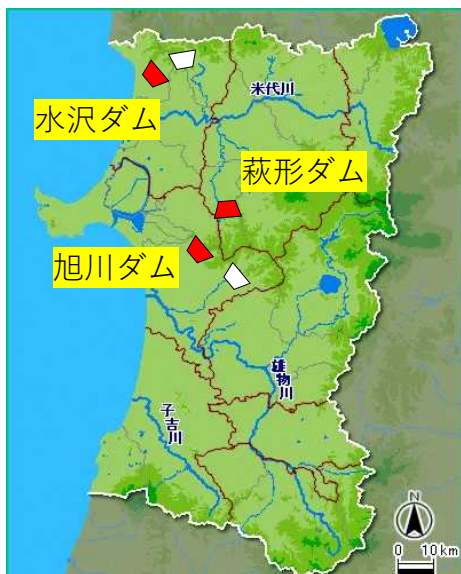
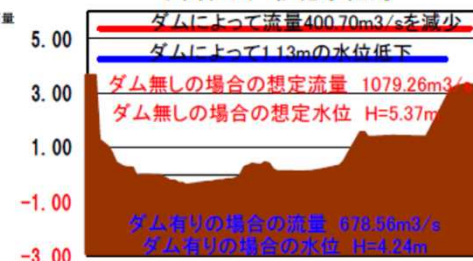
○ 萩形ダム【事前放流未実施・緊急放流実施】

- ☞ 事前放流判断基準である基準降雨量は超過していない。
予測降雨総量でも検討した結果、洪水調節容量で十分足りると判断し事前放流は実施していない。
- ☞ 降雨量が予測降雨量を超える結果となったことから、緊急放流へ移行することとなったが、降雨が落ち着いてからの移行であり下流水位への影響は最小限であった。
- ☞ 最大流入時（降雨ピーク時）に下流への放流量の低減に努め、下流水位（杉花）の**1.13m低減**に繋がったと推測する。

降雨の状況(萩形ダム流域平均雨量)



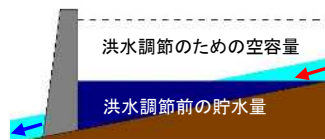
小阿仁川 杉花水位局



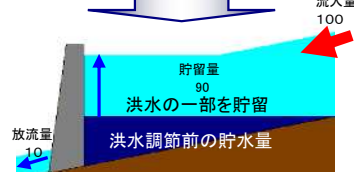
萩形ダムの洪水調節効果【秋田県】（速報）

ダムの洪水調節機能(イメージ)

平常時

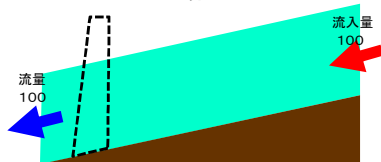


洪水時



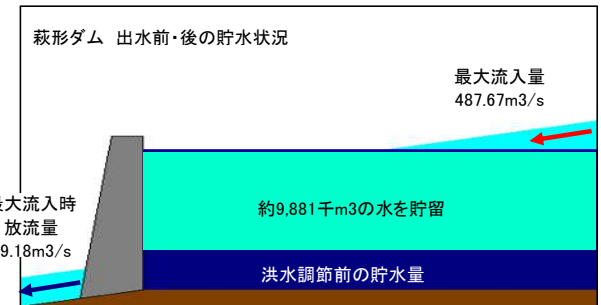
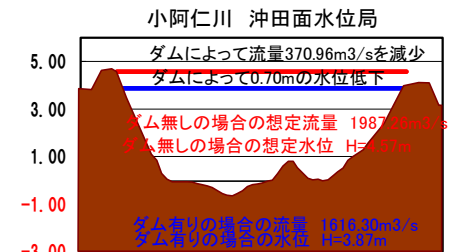
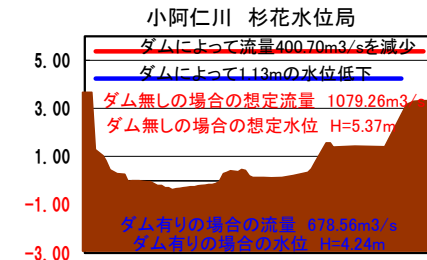
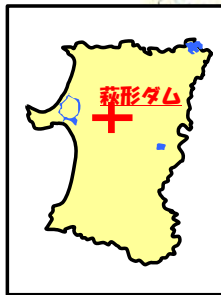
洪水時に、空き容量を使って100流れてくる水をダムで90を貯めて、下流に10だけ流します。

ダムがない場合



流れている100の水は、そのまま下流に流れていきます。

このイメージでは、ダム下流河川に流れる水量は約10%になり、洪水被害を軽減します。



萩形ダムでは7月14日からの梅雨前線による出水のため、洪水調節を行いました。
 7月14日15時から降り始めた雨は、最大時間雨量31mm、累計雨量は424mmとなり、最大流入量は487.67m³/sまで上昇しました。
 洪水調節量として438.49m³/s、約9,881千m³の水を貯留しました。
 また、今回の大雨は、ダムに貯留できる限界を超える出水となったことから、7月15日19時19分から7月17日9時45分の期間において、ダムへの流入量と同じ量を放流する緊急放流(異常洪水時防災操作)を実施しました。

萩形ダムの洪水調節効果【秋田県】（速報）

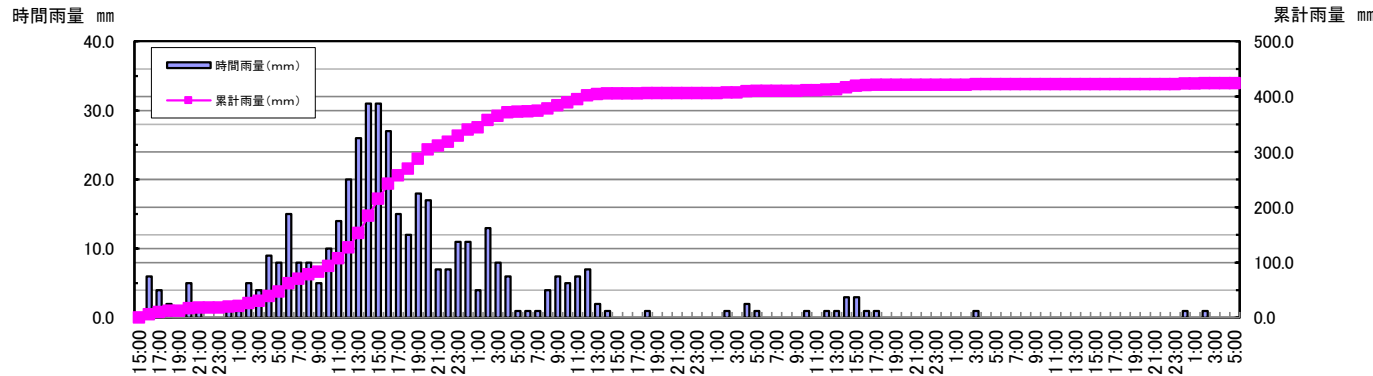
別紙

※今後の調査により数値等が変わる場合があります。

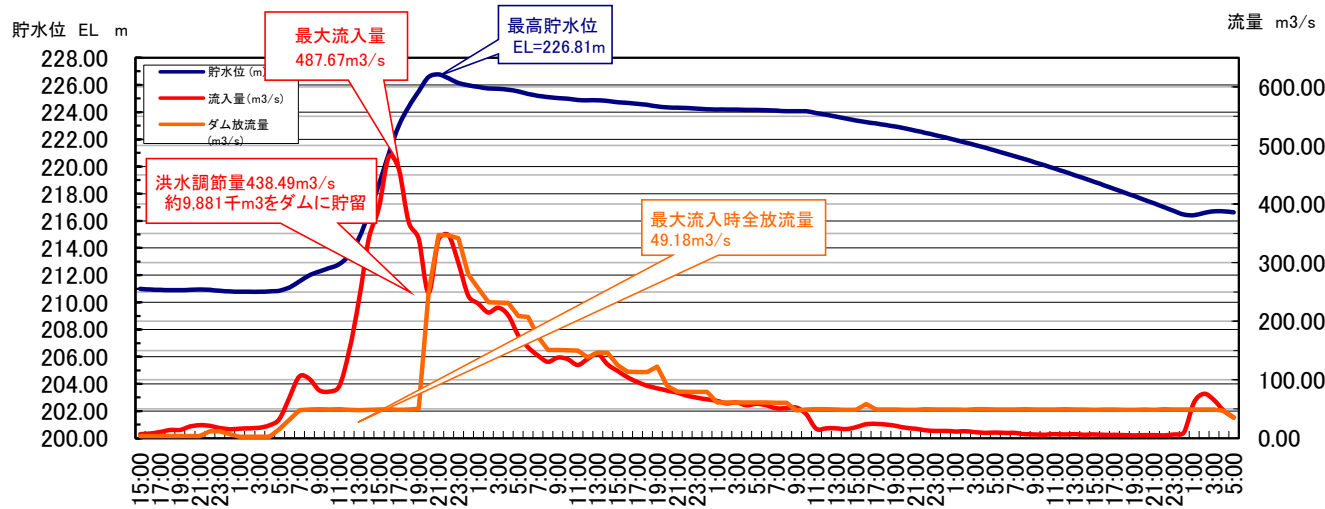
概要

萩形ダムでは7月14日からの梅雨前線による出水のため、洪水調節を行いました。
 7月14日15時から降り始めた雨は、最大時間雨量31mm、累計雨量は424mmとなり、最大流入量は487.67m³/sまで上昇しました。
 洪水調節量として438.49m³/s、約9,881千m³の水を貯留しました。
 また、今回の大雨は、ダムに貯留できる限界を超える出水となったことから、7月15日19時19分から7月17日9時45分の期間において、ダムへの流入量と同じ量を放流する緊急放流（異常洪水時防災操作）を実施しました。

降雨の状況（萩形ダム流域平均雨量）



雨量レーダー（7月15日 15:00）



萩形ダム諸元

河川名	米代川水系 阿仁川左支流小阿仁川
形式	直線重力式コンクリートダム
堤頂標高	227.00m
堤高	61.00m
堤長	173.00m
堤幅	5.00m
堤体積	111,000m ³
集水面積	86.7km ²
湛水面積	1.0km ²
貯水池総容量	14,950千m ³
有効貯水量	11,650千m ³
洪水調節容量	10,000千m ³
計画洪水流量	650m ³ /sec
計画放流量	50m ³ /sec
調節流量	600m ³ /sec
常時発電力	1,900kw
最大発電力	15,500kw
最大使用水量	14m ³ /sec
竣工年度	昭和41年